

掃水まちづくり協議会

たより

平成 19 年 3 月 15 日
掃水まちづくり協議会
No. 5

胎動

協議会顧問 原田俊夫

昨年の秋 十月八日「掃水まちづくり協議会」の設立総会におきまして、構築準備会の原案が可決されました。私は松阪市地域マネジメント審議委員の委嘱を受け、地元の構築準備会の責任者として自治会の責任者として自治連合会の仕事を兼ねながら苦勞をしておりましたが、やっと胸を撫で下ろすことができました。

心に大いに寄りかかっているところですが、続いて昨年十一月には「榎田川堤防クリリーン作戦」を展開、二百名を超える参加者が集まり楽しく活動し、堤防を美しくすることができました。このように、初年度は地域の方々の協力により、良いスタートを切る事ができましたが次年度は正念場であろうと思います。



「まちづくり協議会」の企画、運営の方策には全くモデルがありません。二月二十四日に伊賀市東部地域住民協議会と松阪市に誕生したばかりの三つの住民協議会との交流会が開催されました。いずれも地域の事情があつて暗中模索の限りを尽くし苦勞をしておりました。

昨年五月、「青色回転掃水自主防犯パトロール隊」を発足、榎田自主防災隊連絡協議会を結成し、例年より規模の大きい防災訓練を実施して地域の安全安

以上三つを感じ取ることができました。これからもみんなが助け合つて協議会の推進発展に努めてまいりましょう。

② 行事には楽しく協力し合うこと

③ 反省と改革の話し合いを持つこと

協議会の総会

四月十五日(日)

平成十九年度掃水まちづくり協議会の総会 速報

日時 四月十五日(日曜日)

午後 一時三十分より

場所 J A 松阪農協本店三階にて

協議会は昨年十月に発足してから、半年で第二回総会を迎えることになりました。発足当時は、無我夢中で総会を終えましたが、今年の総会は、中身を少しでも充実したものにしなければなりません。しかも本部役員だけとか一部の者だけ理解していてもいけません。事業のひとつひとつを運営委員さんはもちろんのこと、部会の皆さん、それに参加のみなさんにご理解

願わなければなりません。今は、本部役員会、運営委員会、それに部会の会議を何度も開き、案を練っているところです。大変な時間と努力を要しています。でも、協議会の充実にはこの過程が最も大切であると考えています。



平成十九年度の重点事業として次の四つを考えております。

- 一、あいさつ運動の推進
- 二、榎田川クリン作戦の実施
- 三、掃水夏まつりの開催
- 四、掃水校区合同防災訓練の実施

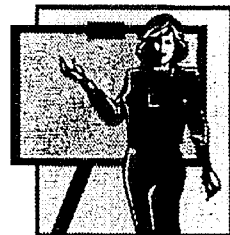
事業には多くの人の参加をしていただけるように工夫を凝らす努力をしています。

また、今年も少しでも事前に要項をお配りしご協議願おうとも考えていますので当日はよろしく願います。

それに、総会にはできるだけ幅の広い皆さんに、できるだけ多くの参加していただけるように三重中央大学短期大学部講師の丸山真名美先生の講演を予定しています。

演題は「いじめ問題」と子どもの育ちを考えるです。

「なぜ、いじめなのか？」から始まり、「親(家族)や地域(近所)や学校・園ができること」など、家庭教育(あいさつ)についても幅広く話をしていただく予定です。



幼稚園から小・中学生とお子さんをお持ちの皆さん、是非ご参加ください。詳しくは後日連絡いたしますが、講演開始時刻は二時半〜三時から一時間十五分くらいを予定しています。

住民協議会同士で交流会を開催!

掃水まちづくり協議会のよう
な三協議会が市の世話により交流会を嬉野町中川地区において開催しました。当日参加された方の感想文を二つ紹介します。

(裏面へ続きます)

(その一)
「みんなが元気で仲よく
楽しいまちづくり」を

山添町 森坂 亨司

二月二十四日、伊賀市のみなさんと松阪市(嬉野・朝見・掃水)の三地区が嬉野中川のコミュニティセンターに集い、まちづくりについて交流会を持ちました。

朝見地区では、自ら考え、立ち向かうまちづくりの様子を、うまくビデオに収録され感動しました。

伊賀市では、安全安心で快適なまちづくりを目指して、青色パト二台をリース、六十名の皆さんが週三回(児童が下校する時刻に二回、夜間一回)のパトロールを実施していること。



嬉野地区では、頭を打つても構わない、とにかく「前へ進もう」を合言葉に二月二十八日、お伊勢さんまで歩こう大会を実施していること。

掃水地区では、向こう三軒両隣をモットーに、市民の水がめである榎田川のクリーン作戦を実施していること等、四地区がそれぞれ発表を合影留念しました。

どの地区もまちづくりについて真剣に考え、取り組んでおられる様子が良く分かり大変意義のある交流会でした。

(その二)
交流会に参加して

榎田町 三宅ひとみ

この前の交流会は、朝見地区の活発な様子を、伊賀市東部、中川、掃水の各協議会が参考にするといい雰囲気でした。

また、各協議会とも運営委員のなり手がなく苦労しているとの件で、朝見協議会は住民協議会を幾度となく開き、地域の人の協力を得ているとのことでした。その際の趣旨説明のスライド映像は、地域を自分たちの手で守っていかなくてはという意欲が感じられるものでした。

掃水地区においては、地域パトロールの方が寒風の中で活動しておられます。子供たちを守っていかなくてはという熱意が地域の方にも伝わり、参加した我々も参加しなくてはという気持ちになりました。それに、掃水の子どもたちも、自分たちは大事にされているのだと感じ、

大人になって地域の子どもたちを守ってあげたいという考えになつていったらと思いました。

私も役員になり、協議会のあいさつ運動を知り、ゴミ出しの朝、中学生に「おはよう」と言うようになりました。やはり、皆さんも協議会活動に関わってもらおうと活動は発展すると思います。どうか皆さんが少しでも関心を持っていただくように願っています。



活発な協議会を
求めて

十八年度末という節目を迎え、協議会について、再度考えてみたいと思います。

これからの世の中、少子高齢化が進み、働いても働いても楽にならず大変な毎日、弱い者から順に孤立化し、新聞を見ても地域によっては殺伐とした悲惨

な状況がどんどん生まれていきます。これから先、心配なのは、五年先、十年先の地域の状況です。このままでよくなるのでしょうか。

そこで、このような状況から地域の仲間と励まし合える元気なまちにし、できたら自分らの手でこの状況を少しでも食い止め、よくしたいというのが我々のまちづくり協議会の考えです。

そのために、協議会のみならず、少なからず身近なもので、開かれ、分かり易いものであることが大切で、しかし、そのことは取りも直さず、自治会、町内会や組のあり方でもあるわけです。なぜなら、協議会を支えるのは協議会の下部組織である皆さんの属する自治会、町内会、それに組であるからです。

自治会や町内会それに組では、普段から自分たちの思っていることを取り上げ話し合う、自分たちとしっかり繋がった身近なものにしておくことが大切です。そのことではじめて、協議会の求める「みんなが元気で仲良く楽しいまちづくり」のテーマが実現可能になるのです。

ここで、このテーマの実現を目指し二つのお願いがあります。

一つは、普段から積極的に地域の人があいさつをし、心の通い合うまちをつくること

近所の人と顔を見て声を掛け

合い、心を通わせ、何かの時には「元氣？」と声を掛けてくれる、また声を掛け合える仲間がいることはすばらしいことです。今は元気で心配なのは先のことです。今のうちに地域の行事には進んで参加し、いろいろな地域で話し合える仲間をつくらせて、安心なまちにしたいです。

二つは、より機能する自治会、町内会、そして組をつくること

みんなが協議会のテーマ実現に向けて、積極的に地域の行事に参加することと併せて、自治会等のことに関心を持ち、任せてつきりにしないことです。

今、最も気になることは、自治会等の役員がほとんど一年交代であるということです。

地域のことを見渡し、地域のもめ事、心配事を把握し、積極的に責任を持ち解決できるようにするにはどうしても二年ぐらいの任期が必要です。本人の能力ややる気に関係なく申し合わせどおり一年で交替です。それで本当に組織として機能するのかがどうか、今のうちに真剣に考え、改善することが大切です。

協議会が始まったの六ヶ月間は、大変忙しい時間を融通し合いました。ここで協議会のあり方を再度考え、作ってよかったと言えるものにしたいです。